

平成26年 第4回 伊丹市教育委員会 定例会 会議録

1. 日 時 平成26年4月17日(木) 午後2時00分～午後4時05分
2. 場 所 伊丹市立総合教育センター 2階 講座室
3. 主 宰 者 委員長 滝内 秀昭
4. 委員の出席 滝内 秀昭 川畑 徹朗 小林 万理子 江原 礼子 木下 誠
5. 委員の欠席 なし
6. 傍 聴 人 1名
7. 関係者の出席
- | | | | |
|------------|-------|------------|-------|
| 教育長 | 木下 誠 | 保健体育課長 | 早崎 潤 |
| 管理部長 | 谷澤 伸二 | 学校給食センター所長 | 松浦 洋一 |
| 学校教育部長 | 太田 洋子 | スポーツ振興課長 | 前田 勝弘 |
| 生涯学習部長 | 田中 裕之 | 公民館長 | 池田 真美 |
| 教育長付参事 | 二宮 毅 | 図書館長 | 三枝 芳美 |
| 教育長付参事 | 大西 俊己 | 博物館長 | 亀田 浩 |
| 総合教育センター所長 | 後藤 猛虎 | 人権教育担当主幹 | 松山 和久 |
| 学校教育部副参事 | 村上 順一 | 中学校給食推進班主幹 | 田中 康之 |
| 生涯学習部副参事 | 小長谷正治 | 少年愛護センター所長 | 倉島 正佳 |
| 人権教育室長 | 大野 浩史 | 学校指導課副主幹 | 森口 真一 |
| 職員課長 | 升井 竜雄 | 学校指導課主査 | 遠藤 文子 |
| 施設課長 | 田原 安治 | 教育総務課長 | 中井 秀典 |
| 教育企画課長 | 花光 潤一 | 教育総務課主査 | 中村 太郎 |
| 学校指導課長 | 春名 潤一 | 教育総務課 | 山本 逸美 |
| 学事課長 | 大村 寿一 | | |

8. 議 事

(1) 開会宣言 滝内委員長(午後2時00分)

(2) 日程報告 滝内委員長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員これを了承。

- | | | |
|-----|---|--------------------|
| 日程第 | 1 | 前回、前々回及び前々々回会議録の承認 |
| 日程第 | 2 | 教育長報告 |
| 日程第 | 3 | 報告第3号の承認 |
| 日程第 | 4 | 議案第28号の審議 |
| 日程第 | 5 | 議案第29号の審議 |
| 日程第 | 6 | 報告第3号の承認 |
| 日程第 | 7 | 議案第30号の審議 |

滝内委員長から「報告第3号のうち専決第6号、議案第30号は人事案件であるため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項の規定に基づき非公開にしたいと思いますが、よろしいでしょうか」との発議があり、全委員はこれを了承。

報告第3号のうち専決第6号、議案第30号は非公開の秘密会となる。

(3) 前回、前々回及び前々々回会議録の承認（日程第1）

平成26年第3回伊丹市教育委員会定例会（平成26年3月24日〈月〉開催）、平成26年第3回伊丹市教育委員会臨時会（平成26年3月28日〈金〉開催）及び平成26年第4回伊丹市教育委員会臨時会（平成26年4月1日〈火〉開催）の会議録については、全委員一致でこれを了承。

(4) 教育長報告（日程第2）

教育長の指示により、管理部長より「4月分人事報告」・「3月分教育施設関係工事の着工・竣工報告」・「3月分寄附採納報告」について、学校教育部長より学校教育部の、生涯学習部長より生涯学習部の、教育長付参事より人権教育室の、教育長付参事兼中学校給食推進班長より中学校給食推進班の「3月分行事実施報告」「5月分行事実施予定」について、それぞれ説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「教育長報告」を承認。

質疑応答

木下教育長

1-2と1-3の人事報告についてだが、小学校の主幹教諭の数が1-2では39名、1-3では38名になっている。理由として、1-2では養護教諭の主幹教諭が含まれているということだが、そうすることで合計数が合わなくなっている。1-2でも養護教諭を除いた38名と計上すれば、小学校の合計が533になり、左右のページで数が一致する。説明を受ければ解るが、初めて見ると、不整合が起きているように感じるので調整してもらいたい。

次に聞きたいのは、これまで臨時講師、本定欠を減らしていこうということだった。今年度は臨時講師の数が幼稚園9名、小学校42名、中学校39名と書いているが、昨年度と比べた幼稚園、小学校、中学校の状況について説明してほしい。

升井課長

まず、小学校の本定員臨任の臨時講師だが、昨年34名だったが今年は42名で、6.7%から8.1%になった。中学校では、昨年52名のところから39名に減り、昨年の17.4%から今年は13.4%に減らすことができた。小中学校合わせて考えると、本定員が81名で、全体の中では10.0%。幼稚園については11名いた本定員臨任が9名になり、

本定率が20.4%から17.3%に減少した。幼稚園の場合は小中学校とは全く別の形で、幼稚園設置基準に則って適正化を図りながら対応している。

この中で、今回、小学校の臨時講師が増えてはいるが、8.1%という数は、国の水準と比較しても半分近い数であり、かなり減っている状況ではある。また、小学校の場合、子供の数が3月末から4月入学式ぎりぎりまで変動し、その変動するところは全て臨時講師対応になる。具体的には、3月20日現在で、子供の数が1人増減することで、教員が1人要るか要らないか決まるという学年が市内で16学年あり、そこには正規教員をつけることができない。さらに、その影響を受けて加配の数が決まってくるため、入学式まで、兵庫型教科担任制や少人数制、新学習システムの加配の数が1人ついたり、クラスが消えて1人消えたりするような学年が、先ほどの学年以外で16学年あった。合わせて32の学年、32人については確実に臨時講師対応しなければならなかった。また、目的加配として生徒指導加配、特別支援加配、児童支援加配が3校、それから専科として、家庭科にするのか理科にするのかとかいうようなところが5校あった。このようなところを、安全を期して臨時対応するとなると40名は確保する必要があった。加えて離職再採用制度というものがあり、離職、一旦職を離れることができるのだが、その場合、代わりに代替の臨時講師を配置することになり、その代替の臨時講師は本定員臨任として計上するので、2名増えて全部で42名になった。このように、不当に臨時講師が増えたわけではない。

中学校については、来年度も引き続き解消をはかっていく必要があり、小学校についてはこのような加配の変動をできるかぎりぎりぎりまで正確に見極めて、必要見込み数を割り出していくということになる。

木下教育長

中学校については大きく減っているということで非常にいいことだと思う。小学校の説明で、児童数の変動があり、16学年で1超え2超えの状態だったということだが、これは毎年考えられることではないのか。

升井課長

毎年考えられるが、今年は多かった。1校につき3学年が1超え2超えという学校が複数あり、その反動を受けて、加配教員、新学習システムや特別支援教育に関する目的別加配を4名、年度末に内報で、去年より増やして配置しているということもある。しかも、定数上去年よりも5名増えた。教員が小学校の場合はトータルで9名増えている。これは年度末になって初めてわかる数字なので、その中で年度当初から希望していた新任の数とあわせたところ、年度末に全体の数が増え、割合が8.1%になった。

木下教育長

この臨時講師として挙げている42名というのは本定員欠員のみか。

- 升井課長 本定員欠員であり、うち2名が、離職再採用対応の代替。
木下教育長 産休代替や病休代替がさらにこれに加わると思うが、昨年度ベースでいいので、どれくらいいるか。
- 升井課長 小学校の産育休は昨年25名、今年は21名。
木下教育長 ということは42名に25名とか21名を足すことになる。
升井課長 臨時講師としてはそうなる。
木下教育長 産休代替とか病休代替というのは大体同じぐらいか。
升井課長 産休、育休、病休等の代替の臨時講師は、今年32名で、去年は、40名。その前年が43名でさらにその前年が42名なので、微減。中学校は今年9名、昨年10名、その前年18名、さらにその前年が17名でやはり少し減ってきている。
- 木下教育長 やはり、学校長が安定した学校運営を行っていくためには、正規教員の率が高いという事が非常に大きな条件なので、できる限り努力をしてもらいたい。それから最初に挙げた、主幹教諭の計上の仕方も、考えてもらいたい。
- 升井課長 表の外に但し書きをして数を置く等、整合する形にする。
江原委員 3ページ。国際ソロプチミスト伊丹からプロジェクター・実物投影機、マグネットスクリーンの寄贈をうけていることについて、このような好意に対して学力向上に向けて活用していくことが重要だと考える。そこで、平成25年度ICTを使った授業数の集計がまとまっていると思うが、その状況はどうか。
- 村上副参事 ICTを使った授業は、平成25年度も進めてきた。具体的な時間数は、平成24年度の実績が1校あたり392時間だった。そこで、平成25年度にはさらに増やしていくために、それぞれ各学校に行って使い方の研修をしたり、実際にセッティングを手伝ったりすることで、平成25年度3月末まで1校あたり982時間というところまで増えた。
これについては、伊丹市教育ビジョン第3期実施計画の中でも、平成26年度の目標値を1校あたり約1,000時間としており、平成25年度はそれに近いところまできているので、引き続きさらに活用し、わかりやすい授業の展開を進めていきたいと思う。
- 江原委員 平成26年度の目標である1,000時間への達成について目途がたっているように思うが、子どもたちの学力向上に対する取組の中でもICTを活用する事は、全国学力調査との関係で学力が向上すると実証されているので、今年度も願います。
次に7-3ページに適応教室やメンタルフレンド派遣生徒の状況等が示されているが、この中で、中学3年生の進路状況について説明できる範

困で説明をお願いします。

村上副参事

今質問があった、学校へ行きにくいような児童生徒に対する適応教室としては「やまびこ館」と「学習支援室」がある。7-3ページの上段部分が「やまびこ館」の通館人数で、3月末まででやまびこ館には、14名の生徒が在籍しており、うち中学3年生は6名いた。また中段の「学習支援室」の在籍人数12名のうち5名が中学3年生。下段、メンタルフレンド派遣対象者につきましては6名のうち1名が中学3年生だったので、6名と5名と1名で合計12名の中学3年生がいた。ただし、12名のうちメンタルフレンド派遣対象者の1名は、やまびこ館に通館している生徒でもあり、重複しているため、それを除けば合計11名ということになる。

11名の中学3年生の卒業後の進路については、11名ともそれぞれの希望を叶えることができ、公立の多部制の高等学校に2名、私立の高校に3名、通信制の高校に3名、専修学校に3名の合計11名が、次の目標を持って4月から新たなスタートを切っている。

江原委員

次の進路が決定するという事は、子どもたちに自信を持たせて、自尊感情をはぐくむ上で本当に重要であると思うので、不登校生徒を始めとして生徒たちが希望をもてるよう、今年度も学校と連携した取組をお願いします。

木下教育長

それに関連して5ページに戻るが、26日に第8回進路担当者会をやっている。今年度の公立学校での状況については次回詳しく説明してもらうことになっているが、来年度入試から通学区域が拡大され、34校を対象として受験することになる。平成21年度から平成25年度までの複数志願制の中では、傾向として県立伊丹高等学校における伊丹市の卒業生は減ってきており、県立川西明峰高等学校にいく生徒が増えてきていたが、平成25年度の県立伊丹と川西明峰に進学する伊丹市の卒業生の状況と、第一希望で入った生徒がどれぐらいいるか、わかる範囲で教えてほしい。

太田部長

次回資料を用意して説明するが、大きな傾向としては、県立伊丹は昨年よりも伊丹の生徒が少し増え、川西明峰の方では倍増している。要因として、全体に伊丹市の生徒が行った数が増えているということもある。

木下教育長

川西名峰へは、第一希望で行っているのか。

太田部長

第二希望も半分ぐらいいる。ただ、今年度公立志向が少し高く、伊丹市の子どもが公立高校を受けているパーセントも高い。県立伊丹西高等学校や市立伊丹高等学校を希望して、第二希望だった子どももいるし、もちろん最初から第一希望で川西明峰を受けた生徒もおり、両方合わせて120名を超えた。次回5月1日の委員協議会で、時間をかけて傾向や細かい値を説明したいと思う。

木下教育長 これから通学区域が拡大されるにあたり、先ほど話したような傾向が、宝塚市等も含んでさらに顕著になってくると思う。だから次回、今年の傾向から、それに対してどんな事を学校現場でしていかなければならないか、対策のようなものが検討できたらいいと思う。

太田部長 進路担当者がこれから行われ、進路希望調査を一学期にとるが、校長会の方でも、今までは伊丹学区での進路希望調査の傾向を調べるという流れだったところ、今年度は、やはり阪神間で色々考え、議論を進めながらやっていくということを聞いている。ただ、初めての事で、先生方にどう説明したらいいのかということもあるので、今年度の進路担当の指導主事には、校長会での連携を深めたり、他市の情報を得たりしながら、進めていくように指示はしている。だが、最終的には学力の問題になってくると思う。そもそも当日の点がとれないといけないということもあるので、そういう事も含めて、3年生やこれから下の学年、小学校も含めて、学力をしっかりとつけていかななくてはならないということを聞いている。

木下教育長 積み上げていかなければいけない。

太田部長 急には本当に難しいと思う。急に点はとれないので。

川畑委員 7-2の冒険教育の利用状況のところで質問。稲野小学校と天神川小学校の利用人数を見ると、稲野小学校は増えているが、児童数の割に少ない気がする。要因としては何が考えられるか。例えば、施設の使い勝手が悪いとか、老朽化しているとか、それとも指導する先生方の意欲というか、考え方の違いがこうした事に反映しているのか。花里小学校とか有岡小学校等は、学校の大きさに比べると、かなり利用人数が多いと思う。これは比較的新しくできたということが理由にあるかと思うのだが、天神川小学校は新しくできたのだから、やはり少し解せないところがある。もしわかっていれば教えてもらいたい。

村上副参事 稲野小学校の施設については老朽化ということはない。実際に危険箇所や不備は、設置業者と毎月点検等に行っているため、安全に使用できる状態ではある。だから、設備の問題ということではないと思う。ただ、稲野小学校は他の施設と違い、中庭というところに設置されているため、設置条件は理由としてあるかと思う。だから継続して、特に学級づくりの頃や宿泊行事の頃利用することで、利用人数は、昨年度の1,200名から今年度は1,800名に増加して、大いに活用してもらった。

それから天神川小学校等については、特に前年度は9月からできたということもあるので、短時間であっても、まず全員使っていくというところがあったので、数は多かったと思う。いずれにしても子どもたちの心の教育として、冒険教育施設を継続して有効に活用していかなければならない

と考えている。あわせて、広さが足りず冒険教育施設を設置できない学校もあるので、そのような学校も活用できるような室内型の冒険教育の用品が、本年度の予算で承認されたので、それを活用していきたいと考えている。

川畑委員　私は、有岡小学校でたまたま冒険教育の指導の場面を見たが、予想もしない様なことが色々起こったりする中で、子どもたちが自発的に協力してやろうとしているようなところに教育的な意義があると思った。しかし、どうしても長年やっているとマンネリ化してきて、本来冒険教育がどのようなことを狙って始めたのかということ先生方が理解しなくなってくると思う。そうすると活動が活発でなくなっていくということもあるかと思うので、老朽化や施設の問題がないのだとすると、やはり冒険教育の意義であるとか、そういうような事をもう1度先生方に理解していただいて活用を促したらいかかかなと思う。よろしく願います。

江原委員　10ページ。5月に第1回目の道徳や人権、あるいは教務等の各担当者が開催される予定になっており、恐らく中学校の教科代表者会等もこの時期に予定されていると思う。今年度、特に伊丹の教育の重点目標として学力体力向上はもちろんだが、自尊感情を育むことに力を入れていこうと考えているところなので、ぜひ担当者会の中で、各指導主事から説明をしてもらいたいと思う。

もう1点、13ページに学校保健会代議員会の予定が記載されているが、そこでも平成26年度の学校保健会の目標を審議されると思う。その中でも自尊感情等の、今年度、特に力をいれようとしていることを反映してもらえるとありがたい。管理職に対しては教育長や部長から説明をしてもらっているが、各担当者会でも説明することによって、一層教員に考えが浸透していくのではないかなと思うが、いかかか。

太田部長　確かに5月は学校教育部の中の保健体育課、それから学校指導課がこれらの担当者会を所掌しており、第1回目は全て「伊丹の教育」を持ってきてもらい、その必要部分を説明することになっている。今年度は、全国学力調査や体力の調査と、川畑委員からいつも話してもらっている自尊感情との関連についてを、最重点にという事も考えているので、今の指摘を全ての担当指導主事に伝え、入れていきたいと思う。また、学校保健会も、代議員会等を経ながら、これから年間目標を作っていく中で、自尊感情の報告は必ず入れて、共通理解を図るに進めていきたいと思う。

木下教育長　その時に、例えば、私が教頭会で話した、ナサニエル・ブランデン氏の考え方や乙武さんの話、広島例等を、資料にしてもらえたらありがたい。繰り返し伝えることが大切だと思うので、幼稚園教育研究会総会でも話そ

うと思っている。ところで、記載がないが、教科代表者会は、いつ行われるのか。

太田部長 教科代表者会は校長会が主催で、教育委員会事務局は主催ではないため、記載していない。

木下教育長 中体連総会は。

太田部長 中体連は保健体育課が所掌している。教科代表者会は各教科の長が校長なので校長会。小学校も校長会。それを一緒にやっている形をとっている。主催ではないため入れていないが5月に実施する。

木下教育長 主催でないかもしれないが、教科代表者会の日にちは入れておいてほしい。

それから9ページに戻るが、教育企画課の報告で、市立伊丹高等学校の活性化として、今年度特に商業科の活性化に取り組んでいくということだが、その前のワーキンググループの4つの柱の説明として、伊丹の教育アピール戦略を立ち上げたと言っておられたが、是非アピールに取り組んでいただきたい。市立伊丹高等学校の大学進学率が平成25年度は非常に伸びた。そのようなことを校長会やPTAの会等で積極的に出していくべきだと思う。ホームページ上にも載っているし、是非アピールしてください。

太田部長 それに関しては、昨日広報課長と調整し、市立高校はやはり伊丹市民の税金で成り立っている学校なので、6月1日号の1面に特集してもらい、進学率の事も含めてアピールするように調整している。最初は5月にしようと考えていたが、6月にすれば1面にしてもらえるとということだった。

木下教育長 中学校給食は、積極的に情報提供しているおかげで、色々なリアクションがある。待ちではなく積極的な攻めの姿勢が必要だと思う。

川畑委員 要望で、教育長とも少し話をしたことがあるが、やはり、これから学校のいろんな子ども達が抱える問題の中では、自尊心もそうだが、家庭の問題が一番大きいと思う。そういう意味で、スクールソーシャルワーカーの役割というのがすごくこれから重要になる。もちろんスクールカウンセラーも大事だが、子どもをとりまく家庭環境に対する働きかけとか、そういう事もあわせて行わないといけない。今度、私の大学の非常勤研究員が、奈良のスクールソーシャルワーカーの非常勤をするようになった。私も昨年校長会で話をさせてもらったように、校長会がどういう演題を選ばれるかわからないが、できれば校長の中にも、スクールソーシャルワーカーとスクールカウンセラーとの役割の違いや、スクールソーシャルワーカーの果たすべき重要性等について、あまり知らない方もいるようなので、できれば校長会、それが難しいならこういう協議会等の機会に、今スクールソーシャルワーカーとして伊丹で働いている方に、自分の経験を通して、ど

ういうことをやっけていて、どういふことを感じているのかというよふな事を、私自身も聞きたいと思っけてるので、話してもらふ機会を作ってもらえればありがたい。

太田部長

スクールソーシャルワーカーについては、昨年も一年間常勤で、特に不登校の多い中学校2校は毎週行ってもらい、保護者とも懇談をしたり、先生方や関係機関との繋ぎになってもらったりしたところ、その2校は「非常にありがたい。今年度も是非続けてほしい。」と言っけている。

その他、小学校も家庭とのトラブルの時に、スクールソーシャルワーカーが第三者的に関わって、信頼を築きながら学校との関係もつくるという例もあるので、校長会で時間をとることは難しくはないと思っけし、説明や事例報告として入れていきたいと思っけ。

小林委員

7-2で質問。研修で臨時講師等セミナーという欄があるので、臨時講師だけ別に研修をしているのだと思っけが、すごく斜線が多い。正規職員と臨時講師の講習内容がどのように違ふのかわからないが、いずれ伊丹に正規の職員として帰っけてくる臨時講師だと思っけし、保護者からは臨時講師であっても正規職員であっても一緒なので、同じ研修を受けて同じスキルを身につけてもらえるよふできるだけ機会を与えてもらい、教師になった時点である程度レベルを身につけておいてもらいたいと思っけ。

やはり臨時講師は臨時講師の研修しか受けられないのか。臨時講師で1年目2年目3年目の場合は、若手教職員の研修は受けられないのか、それらについて、どのよふになっているのか教えてもらいたい。

村上副参事

臨時講師等セミナーについては、臨時講師または非常勤講師などが、これから現場に出て行く前段階に必要な研修を、近隣市町でも少ないが、伊丹市では取り入れている。回数が少ないということではなく、例えばこの表でいうと8月までは人数が記載され、その後斜線になっているが、これは8月までの段階では、教員になっていくための心がけや、採用試験に向けてのことなど色々学んでもらい、9月以降は、上段のカリセンミニ講座というところに来てもらうことになるので、決して回数が少ないということではない。また内容は、もうすでに採用されて先生になられた方と今からの方というところで、最初の3ヶ月3回4回ぐらいは分かれているが、もちろん今お話があつた様に子どもたちや保護者にとっては同じ先生なので臨時講師等の質も上げていくよふに考えていきたいと思っけ。

升井課長

昨日県の会議に出て、その中で県教委からも各市町教委に対して臨時講師と教諭の差がつかないよふな研修会の開催と、奨励というか案内を臨時講師にもするよふに話があつた。県の方でも年間2回臨時講師に特化した研修会をする。各市町教委でも臨時講師に特化した研修を年間3回は行い、

それ以外の普段の研修は平等に案内をするようにということになっているので、ここでスキルの差ができるということは無い。伊丹市では従前から臨時講師にも平等に案内をしている。

小林委員 新しく先生になられた方には新任教育という形で、特別な研修があると思うのだが、例えば学校を卒業して1年目で教師になれなかった臨時講師にも同じような先生としての心構え等の勉強をする機会はあるのか。

村上副参事 もちろんその機会を保障していくのが、カリキュラムセンターであり、また、普段の研修でも同じように研修を受けてもらうことになっている。ただ、初任者研修は法定研修なので、採用された年に何日間受けるという規定がある。それ以外の研修で主として、とにかく子どもたちの前に立つにあたって指導力をつけてもらうというところで、研修を案内するとともに、まさに今日夜7時からミニ講座というのがあり、臨時講師も参加する予定になっている。

木下教育長 正規と臨時講師の違いとして、正規は法定で定められたもので、研修を受けるときは、別の先生を配置して自習にならないような手立てができる。だが、臨時講師の場合は研修に行くと、その時間は自習になってしまう。そのような事情もあり、法律で保障されているかどうかで異なる部分もあるので、全く同じようなことするのは無理で、臨時講師に対しては、時間外にできるだけ工夫して資質向上に向けて取り組んでいる。

川畑委員 関連して質問。去年新任の先生がメンタルの問題で休職したということがあったが、あの先生は、今年は復帰しているのか。

升井課長 退職しました。

川畑委員 それはそれとして伊丹市ではメンター制度をとっているとその時初めて聞き、いい制度だと思ったのだが、メンターの方がつく前にそういう問題が起こってしまったということだったので、なるべく早く対応した方がよいと思う。今年もたくさん新しく先生が入られたと思うのだが、メンターの制度の活用の状況を教えてほしい。もうついているのか。

村上副参事 メンター制度は伊丹市の事業ではなく、前年度から始まった兵庫県教育委員会の制度で、去年1年目は試行だった。今年度、全県的な動きは、内容を決めるところまでまだできていないので、それぞれ各学校で先輩の先生方で対応しているところだが、いい制度なので、引き続き考えていきたい。県からの指示があり次第すぐに決めていく。

川畑委員 せっかく入ってきた人がそんなに簡単に潰れてしまっただけは困るのでお願いします。

太田部長 元々、初任者用の加配教員があり、4人に1人加配教員という形で、指導する立場の者が正規の教師には付いている。その教員は授業がない状態

で、新任の授業に全部入ったり、一緒に入って指導したりするシステムになっている。だから、総合教育センターや、県の初任者研修という仕組みも大事ではあるが、そのような加配教員を活用したり、あるいは臨時講師も含めて、学校では必ず年間に1人1回は公開授業をすることが当たり前になっていたりするので、校内での研修をきっちり充実させながら積み上げていくことも大事だし、総合教育センターでも、初任者には年2回授業研究して、指導主事が見に行くということをしているので、今年度もそのような積み上げを行うと共に、特に、色々な状況があるところには細かに指導主事から私たちの方に報告があるので、きちっと積み上げていきたいと思う。

江原委員

全国学力調査が近づいてきたが、昨年度学校別ファイルなどを活用して具体的な支援ができるようなシステムを作ってもらっていたので、効果を期待するところだが、いずれにしても教育活動にこれでいいということはないので、今年度も引き続き努力が必要であり、私自身も学校訪問などを通して情報収集に努め、支援をしていきたいと考えている。今年度さらに支援ができるように、何か考えていることがあれば教えてほしい。

太田部長

私たちとしては学校へきめ細かに連絡しながら、取り組んできたので結果を楽しみにしたいと思っている。結果については昨年度サポートファイルを作ったり、各学校に形式をそろえた授業改善プランというかたちで、報告をしたりしながら進めてきた。

反省として、昨年指導主事を茨木市に見学に行かせたところ、大阪大学と連携し専門家を入れながら非常にきめ細やかな報告をしていて、成果を上げていた。本市でも取り組みたいと思っていたところ、ちょうど文部科学省が3月に公募提案をしており、学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究項目で、450万円がつくということだったので手をあげた。課題が大学との連携ということで、浅野先生を通じて兵庫教育大学の専門家を紹介してもらい、その先生から内諾を得て、相互からプランをだした。それが内定でプランが通り、採択されたので今年度は、兵庫教育大学と連携しながら分析のシステム、まずツールを作ってみて、その相関をしっかりと見られるようなものにしようとしている。大学もそのような研究をしたいということでお互い Win-Win になるようにしたいと思っている。

まずは、分析システムを開発、それに基づいて具体的にどのようにしていけばいいのかというのを専門家の力を得ながら提案していき、それを公表したり、学校へ指導をしたりしていくということで、学校というより、伊丹市としてどのように進めていくのがいいのか模索しながら、個別に対

応していく仕組みと、学校に指導する体制を作りたいと思っている。これがまず1点目。

もう1つは兵庫県の県の事業として放課後の補習に対しての支援があり、これは結果がまだわからないが、伊丹市としてはやってみたいと手を挙げているところ。

これらについて6月補正で出していきたいと思っており、準備を進めているというところ。手探りではなく、より科学的に進めていきたいと思っているので、もう少しプランがはっきりしたら報告すると共に、意見をもらいたいと思っている。

江原委員 また、そのような情報をもらえたら学校訪問などで、学校支援にまわりたいと思うのでよろしく願います。

生涯学習部関係で、19ページで2点質問。1点目、5日に交流スペース運営会議が開催されたということだが、何か26年度に向けて新しい企画などが出ているかどうか、出ていたら教えてもらいたい。2点目は、22日にほうかご図書くらぶが開催されており、これは小学校4年生から高校生の子ども達が図書館でいろんな体験を通して、活動しているものだと思うのだが、平成25年度の取組状況はどうだったか。また26年度に向けて課題や、これは南分館で行われているが、他の館への拡充も考えているのか教えてもらいたい。

三枝館長 まず、1点目の交流スペース運営会議については、27ページに記載の「絵封筒を作ろう」という、昆虫館とタイアップして、絵封筒を作ったりする講座を行う。そのあとそれを展示し、色々な楽しい封筒をみてもらうことで、興味を持ってもらえるのではないかと企画。

2点目のほうかご図書くらぶは、ラスタホールにおいて年間7回実践し、本館ことば蔵においても、一日図書館員という20数名の参加者がある事業を行った。成果として、色々楽しい企画をすることで幅も広がったと思う。課題として、25年度の課題だけではないが、大きく2つの視点がある。1つは活動の内容で、まず、子どもの目線でこれからも子どもたちに本の良さを知ってもらえるように、楽しいと思える企画やPRを続けていくということ。もうひとつは、参加している本人という視点から、何よりも自分自身が楽しく、そして継続していけるということが大切なことだと考える。

また、他の館への拡充ということについては、本館においても今年度も取り組めるようにしていきたいと考えている。

江原委員 子どもたちの考える力や心をはぐくむ上で、図書館と学校との連携というのが非常に重要だと思う。子どもたちがそのような活動をさせてもらっ

ているという事は大変ありがたいし、学校へも周知してもらいながら連携を深めていってもらえたらと思うのでよろしく願います。

続いてもう1点24ページ。14日に伊丹市少年補導委員新任研修会が予定されているが、1学期の間に、学校の朝礼などで補導委員さんを紹介するような働きかけをしてはどうかと考えている。既に、一部の学校では取り組んでいる学校もあるが、市内全小中学校に広めてはどうか。というのも、実際の、特に夜の補導になると中高生が多いとは思いますが、小学生のうち補導委員の方と子どもたちが顔なじみになり、心を通わせておくことで、補導活動がしやすくなると思うので、そのようなことを学校に働きかけてはどうかと思うがいかがか。

倉島所長

顔見知りになるというのは非常に大切なことだと感じていて、昨年度から少年愛護センターとしても取り組んでいる。例えば、生徒指導担当者会において各小学校中学校で朝礼などの機会に、少年補導委員さんと呼んで、児童生徒に紹介してもらいたいと依頼をした。その結果、いくつかの学校で先ほど話にあったように朝礼の際に紹介してもらったり、伊丹小学校では雨が降ったがテレビの朝礼で紹介してもらったり、朝礼等で紹介できなかった部分を学校通信等で紹介してもらったりした結果、非常に効果があり、子どもたちの方から声かけをってもらうこともあったと補導委員さんも喜んでいました。

その他にも少年愛護センターとして、子どもたちに少年補導委員の顔を覚えてもらうために、ブロック毎に集合写真を撮り、引き伸ばして各学校に渡して、子どもたちの目につくところに掲示してもらい、少年補導委員の方はこういう方だと認識してもらう取組をしている。今年度においてもメンバーが大幅にかわるので、引き続き掲示の依頼をしていくのと併せて、校長会等で少年補導委員さんの紹介を依頼したいと考えている。

子どもたちは核家族化によって、保護者以外の大人との接触がとてもなくなくなってきているので、この声かけというのは非常に貴重だと考えている。今日、顔見知りの人以外の大人が声をかけると不審者というように疑われる事もあり、また、実際に不審者も多数でているので、そんな中、補導活動をより円滑かつ効果的に行うためには地域の子どもと補導員がよく顔見知りになっておくことが大切だと考えている。少年補導委員の愛の一声運動がますます青少年の健全育成に大きく寄与すること確信しており、今後もPR活動は積極的にやっていきたいと考えているのでよろしく願います。

小林委員

娘が通っていた小学校でも、朝礼などで、いつもこの赤いジャンパー着ていると紹介があった。後日行われたPTAと少年補導委員さんとの情報

交換の際に、その赤いジャンパーを子供が認識したことで、その方々が散歩したら、たくさん声をかけてもらえたという声があがっていた。

子どもだけでなく、保護者や地域、色々なところにも、子どもたちを見守っているということを紹介してもらえたらと思う。

(5) 報告第3号の承認（日程第3）

滝内委員長より「報告第3号 教育長の委任事項並びに専決事項に関する規則第2条第2項の規定による専決処分報告について」のうち、「専決第5号 平成25年度第5回教育関係費補正予算要求の申出について」を議題とする旨の発議がなされ、教育長から、「専決第3号につきましては、平成25年度第5回教育関係費補正予算要求を市長に申し出ることについて緊急を要したので専決処分により処理したものです」との説明がなされ、管理部長より、補足説明があり、全委員一致で「報告第3号」の「専決第5号」を原案のとおり承認。

(6) 議案第28号の審議（日程第4）

滝内委員長より「議案第28号 伊丹市立学校教科用図書採択に関する規則の一部を改正する規則の制定について」を議題とする旨の発議があり、教育長から、「伊丹市立高等学校の県立高等学校への統合に伴い、伊丹市立学校教科用図書採択に関する規則の一部を改正する規則を制定するものです」との説明がなされ、学校教育部長より、補足説明があり、全委員一致で「議案第28号」を可決。

(7) 議案第29号の審議（日程第5）

滝内委員長より「議案第29号 平成27年度使用伊丹市立学校教科用図書の採択方針について」を議題とする旨の発議がなされ、教育長から、「平成27年度伊丹市立学校で使用する教科用図書の採択方針を定めようとするものです」との説明がなされ、学校教育部長より、補足説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「議案第29号」を可決。

質疑応答

江原委員 議案そのものへの異議はないが1点検討してもらいたい。教科書採択にかかる調査で、例えば小学校の選定については、調査員を小学校教員に、中学校の選定については中学校教員にお願いしている。今、授業における小中連携が市内でも進んでいるかと思うが、教科書採択に係る調査においても、小中連携を取り入れてはどうか。今年度は小学校の採択にあたる年。例えば中学校の国語なら国語科の教科先生にも調査員として入ってもらおうと、時間的な設定などは難しいとは思いますが、小中学校のお互いの理解や、子供たちの学びの連続性等が一層進むのではないかなと思う。検討してもらえたらありがたい。

太田部長　　今まで当たり前のように小学校の教科書は小学校の先生たちが中心とした調査委員会という形で思っていたが、やはり連携ということになると中学校のことを見据えた方がいい。小学校でこれを使うと中学校での繋がりがいいという視点は、新しくて非常にいいと思う。教科がたくさんあるから全部は難しいとは思いますが、非常にそれはありがたい意見として、何とか特定の教科でしてみる等、模索しながら現実的にやっていきたいと思う。

木下教育長　　今年度は、小学校の教科図書の採択の年にあたり、昨年文科省で検定を受けた中で、特に社会科の領土問題について、自民党による強い指導があったりして、尖閣諸島や北方領土が日本の領土だということがかなりはっきりと記述されていると思う。

恐らく5年生の教科書に出てくる。だからその採択にあたっては、結構慎重にやらなければならない。この問題は、調査委員会や協議会についての傍聴もたくさんあると思う。選定委員を選ぶ時には、特に慎重に江原委員の話も含めてやってもらいたい。

太田部長　　新聞報道等で読んでも、小学校教科書にも竹島尖閣を全社に記述という形で出ておまして、当然そのような内容の見比べも含めて、これまでどちらかという、中高の教科書で記述があり、小学校は比較的そういうこととは影響されてなかったのに、出てきていて、注視しながら採択にあたるよう事務を進めていきたいと思います。

(8) 報告第3号の承認、議案第30号の審議

(日程第6、日程第7)

秘密会で審議の後、全委員一致で、「報告第3号 教育長の委任事項並びに専決事項に関する規則第2条第2項の規定による専決処分報告について」のうち「専決第6号 伊丹市学校教育審議会委員の任命について」及び「議案第30号 伊丹市奨学生選考等委員会委員の任命について」を可決。

(9) 閉会宣言

滝内委員長 (午後4時05分)

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育委員会委員長

滝内 秀昭

伊丹市教育長

木下 誠